

カゼ太郎の簿記仕訳

簿記3級を受験するまでに次のすべての仕訳ができるようにしてください。(☆は後回しにしてもよい問題です。)

現金等

1	現金¥50,000を普通預金口座に預け入れた。	普通預金	50,000	現金	50,000
2	A商店から売掛金¥150,000の支払いとして、A商店振り出しの小切手を受け取った。	現金	150,000	売掛金	150,000
3	さきに千葉商店より受け取った小切手¥200,000と、前期中に受け取った普通為替証書 ¥5,000を、ともに当座預金口座に預け入れた。	当座預金	205,000	現金	205,000
4	買掛金 ¥79,000を当座預金口座から支払った。	買掛金	79,000	当座預金	79,000
5	現金¥10,000円を小口現金係へ渡した。	小口現金	10,000	現金	10,000
6	小口現金¥10,000について、小口現金係から次のとおり使用したことが報告された。 ・文房具 ¥3,000 (使用済み) ・電車賃 ¥4,500	消耗品費 旅費交通費	3,000 4,500	小口現金	7,500
☆ 7	当座預金口座を開設し、普通預金口座から¥100,000を預け入れた。また、口座開設と同時に当座借越契約を締結し、その担保として普通預金口座から ¥2,000,000 を定期預金口座へ預け入れた	当座預金 定期預金	100,000 2,000,000	普通預金	2,100,000

※ 通貨(紙幣、硬貨)以外で「現金」として処理するもの、
他人振出小切手、郵便為替証書(普通為替、定額小為替)、送金小切手、株式配当金領収書、期限の到来した公社債の利札

先日付小切手は「受取手形」。
※ 自己振出小切手は自社の当座預金にお金が戻るので、「当座預金」。

仕入

8	A商品50個を@ ¥60(=¥3,000)で仕入れ、代金は掛けとした。	仕入	3,000	買掛金	3,000
9	商品¥200,000を仕入れ、小切手を振出した。	仕入	200,000	当座預金	200,000
10	先月函館商店から掛で仕入れた商品¥1,000について品違いのため返品し、掛代金から差し引くこととした。	買掛金	1,000	仕入	1,000
11	北海道商店より商品 ¥450,000を仕入れ、掛けとした。なお、引取運賃 ¥1,000は現金で支払った	仕入	451,000	買掛金 現金	450,000 1,000

売上

12	商品¥90,000を掛で売上げた。	売掛金	900,000	売上	900,000
13	掛売上した商品¥10,000について、品違いによる返品があった。	売上	10,000	売掛金	10,000
14	埼玉商店に商品¥200,000を掛けて販売し、送料¥2,000を現金で支払った(送料は当社負担)。	売掛金 発送費	200,000 2,000	売上 現金	200,000 2,000

☆ 15	千葉商店に商品¥400,000を売り渡し、送料¥3,000を加えた合計額を掛けとした。また、同時に配送業者へ商品を引き渡し、送料¥3,000は現金で支払った。	売掛金 発送費	403,000 3,000	売上 現金	403,000 3,000
16	得意先に商品 ¥26,000を売り渡し、代金のうち¥20,000は得意先振出の小切手で受け取り、残額は現金で受け取った。	現金	26,000	売上	26,000
17	クレジット払いの条件で商品¥40,000を販売した。なお、信販会社へのクレジット手数料¥800は商品販売時に計上する(クレジット売掛金で処理)	支払手数料 クレジット売掛金	800 39,200	売上	40,000
18	得意先に対する売掛金 ¥150,000について、取引銀行を通じて電子債権記録機関から電子記録債権の発生記録の通知を受けた。	電子記録債権	150,000	売掛金	150,000
各種費用					
19	切手とはがき計¥3,500を現金で購入した。(直ちに消費した)	通信費	3,500	現金	3,500
20	水道光熱費¥73,000と通信費¥9,000が当座預金口座から引き落とされた。	水道光熱費 通信費	73,000 9,000	当座預金	82,000
21	店舗を賃借し、敷金(保証金) ¥300,000および手数料 ¥150,000を普通預金口座から振り込んだ。	差入保証金 支払手数料	300,000 150,000	普通預金	450,000
22	決算となり、未使用分のはがきと切手が¥5,000あることが判明したため、適切な勘定へ振り替える	貯蔵品	5,000	通信費	5,000
※	収入印紙、電車・バスの回数券、はがき・切手等も未使用分は、期末に「貯蔵品(資産)」に振り替えます。				

23	営業活動で利用する電車およびバスの料金支払用ICカードに現金¥30,000を入金した。	仮払金	30,000	現金	30,000
24	営業活動で利用する電車およびバスの料金支払用ICカードに現金¥30,000を入金した。なお、入金時に全額費用に計上する方法を用いている。	旅費交通費	30,000	現金	30,000
25	当月分の従業員の給料¥120,000について、所得税の源泉徴収額¥6,000を控除した残額を、当座預金口座から支払った。	給料	120,000	当座預金 所得税預り金	114,000 6,000
26	先月の給料にかかる所得税の源泉徴収額 ¥6,000を現金で納付した。	所得税 預り金	6,000	現金	6,000
約束手形					
27	約束手形の受入れによる売上げ ¥180,000があった。	受取手形	180,000	売上	180,000
28	銀行に取立てを依頼していた約束手形¥39,000が決済され、当座預金口座への入金を受けた。また、銀行に対する取立手数料¥1,000が当座預金口座から引き落とされた。	当座預金 支払手数料	39,000 1,000	受取手形 当座預金	39,000 1,000
29	埼玉商店の売掛金¥120,000については同店振出しの約束手形で回収した。	受取手形	120,000	売掛金	120,000
30	かねて(=以前から)振り出していた約束手形 ¥30,000の支払期日をむかえ、同額が当座預金口座から引き落とされた。	支払手形	30,000	当座預金	30,000
☆ 31	買掛金の支払いとして¥21,000の約束手形を振り出し、仕入先に対して郵送した。なお、郵便代金 ¥500は現金で支払った。	買掛金 通信費	21,000 500	支払手形 現金	21,000 500

固定資産・減価償却

32	備品¥350,000を購入し、設置費用¥4,000を含めた代金を来月末に支払うこととした。	備品	354,000	未払金	354,000
33	備品(取得原価¥2,000,000)について、残存価額をゼロ、耐用年数を8年とする定額法により減価償却を行う。	減価償却費	250,000	備品減価償却累計額	250,000
34	建物(取得原価¥800,000)について次のとおり定額法で減価償却を行う。 建物:残存価額は取得原価の10%、耐用年数24年	減価償却費	30,000	建物減価償却累計額	30,000
☆ 35	備品については、すでに昨年度において耐用年数をむかえたが、今後も使用し続ける。そこで、今年度の減価償却は不要であり、決算整理前残高試算表の金額(1円)をそのまま貸借対照表へ記載する。	仕訳なし		(耐用年数を迎えても使用している場合、備忘録的に「1円」と表記することがある。)	
36	建物の改築と修繕を行い、代金 ¥20,000,000を普通預金口座から支払った。うち建物の資産価値を高める支出額(資本的支出)は ¥16,000,000であり、建物の現状を維持するための支出額(収益的支出)は¥4,000,000である。	建物 修繕費	16,000,000 4,000,000	普通預金	20,000,000
37	営業用の土地550㎡を1㎡あたり¥35,000(=¥19,250,000)で購入した。この土地の購入手数料¥400,000および整地手数料¥50,000は現金で支払い、土地の代金は後日支払うこととした。	土地	19,700,000	現金 未払金	450,000 19,250,000
38	不用になった備品(取得原価 ¥400,000、減価償却累計額 ¥300,000、間接法で記帳)を期首に¥20,000で売却し、代金は2週間後に受け取ることとした。	備品減価償却累計額 未収入金 備品売却損	300,000 20,000 80,000	備品	400,000
☆ 39	平成23年1月4日に購入した備品(取得原価¥360,000、残存価額ゼロ、耐用年数6年、定額法、間接法で記帳)が不用になったので、本日(平成27年3月30日) ¥80,000で売却し、代金は翌月末に受け取ることにした。なお、決算日は12月31日とし、減価償却費は月割りで計算する。	・備品減価償却累計額 ・減価償却費 ・未収入金 ・固定資産売却損	240,000 15,000 80,000 25,000	備品	360,000

貸倒・貸倒引当金

40	受取手形および売掛金の期末残高(それぞれ¥420,000、 ¥300,000)合計に対して2%の貸倒引当金を差額補充法により設定する。(期末時点の貸倒引当金残高は¥10,000)	貸倒引当金 繰入額	4,400	貸倒引当金	4,400
41	徳島商店に対する売掛金 ¥200,000 (前期販売分)について、本日、¥70,000を現金で回収し、残額については貸倒れとして処理した。なお、貸倒引当金の残高は¥300,000である	現金 貸倒引当金	70,000 130,000	売掛金	200,000
42	得意先が倒産し、売掛金 ¥800,000のうち ¥200,000は、かねて注文を受けたさいに受け取っていた手付金と相殺し、残額は貸倒れとして処理した。貸倒引当金は設定していない。	前受金 貸倒損失	200,000 600,000	売掛金	800,000
☆ 43	昨年度に得意先が倒産し、その際に売掛金 ¥1,000,000の貸倒れ処理を行っていたが、本日、得意先の清算に伴い ¥50,000の分配を受け、同額が普通預金口座へ振り込まれた。	普通預金	50,000	償却債権 取立益	50,000
仮払金					
44	仮払金¥120,000は、その全額が12月1日に購入した備品に対する支払いであることが判明した	備品	120,000	仮払金	120,000
45	ICカードへのチャージ(入金)おこなった際は仮払金勘定で処理し、使用時に適切な勘定に振り替えている。本日、ICカードへ現金でチャージした。 ¥32,000	仮払金	32,000	現金	32,000
46	(ICカードにチャージした)翌週、電車での移動による使用 ¥18,000、消耗品の購入による使用¥10,000 があった。	旅費交通費 消耗品費	18,000 10,000	仮払金	28,000
☆ 47	従業員Fの出張にあたり、旅費の概算額¥30,000を現金で渡した	仮払金	30,000	現金	30,000
☆ 48	出張した従業員Fが帰社し、旅費を精算して残額の ¥2,000を現金で受け取った(あらかじめ¥30,000を渡してある)。	旅費交通費 現金	28,000 2,000	仮払金	30,000

☆ 49	・従業員が出張から戻り、旅費の残額 ¥8,000と、得意先で契約した商品販売にかかる手付金¥15,000を現金で受け取った。なお、出張にあたって、従業員には旅費の概算額 ¥25,000を渡していた。	旅費交通費	17,000	仮払金	25,000
		現金	8,000	前受金	15,000
		現金	15,000		

※ 仮払金: 内容が不明のお金を(とりあえず)払った場合に用いる。支払内容が判明したら、適正な費用勘定に振り替える。
(例: ICカードへの入金、出張時の旅費の概算払い額、従業員が支払った内容不明なもの)

前払金

50	商品発注に伴い手付金 ¥80,000を現金で支払った。	前払金	80,000	現金	80,000
----	-----------------------------	-----	--------	----	--------

51	新宿商店より商品¥130,000を仕入れ、代金のうち ¥30,000は発注時に支払った手付金と相殺し、残額は掛けとした。また、商品の引取運賃も(当社負担) ¥1,000を現金で支払った。	仕入	131,000	前払金	30,000
				買掛金	100,000
				現金	1,000

52 前払金: 商品売買に先立ってお金を支払った場合に計上する勘定(手付金と内金は同じものと考えて可)
仮払金: 内容が不明のお金を(とりあえず)支払った場合に仮に計上する勘定

仮受金

53	当座預金に内容が不明の入金¥100,000があったので、仮受金で処理をする。	当座預金	100,000	仮受金	100,000
----	--	------	---------	-----	---------

54	仮受金¥100,000は売掛金を回収したものであることが判明した。	仮受金	100,000	売掛金	100,000
----	-----------------------------------	-----	---------	-----	---------

前受金

55	商品¥150,000の注文を受け、手付金として現金 ¥30,000を受け取った。	現金	30,000	前受金	30,000
56	上記商品¥150,000(うち¥30,000を手付金として受け入れ済み)を売り上げ、残額を現金で回収した。	前受金 現金	30,000 120,000	売上	150,000
※	・前受金:商品売買に先立ってお金を受け取った場合に計上する勘定(手付金と内金は同じものと考えて可) ・仮受金:内容が 不明 のお金を(とりあえず)受け取った場合に仮に計上する勘定				
借入金・貸付金					
57	A銀行から短期資金として¥1,000,000(利率年1.5%、8か月間)を借り入れ当座預金に振り込まれた。	当座預金	1,000,000	借入金	1,000,000
58	A銀行からの借入金(¥1,000,000、利率年1.5%、8か月間)について、支払期日が到来したため、元利合計を当座預金から返済した。借入期間は当期中の8か月であった。	借入金 支払利息	1,000,000 10,000	当座預金	1,010,000
59	B銀行から借り入れていた ¥730,000の支払期日が到来したため、元利合計を当座預金口座から返済した。なお、借入れにともなう利率は年2%、借入期間は100日間であり、利息は1年を365日として日割計算する。	借入金 支払利息	730,000 4,000	当座預金	734,000
60	KAZE商店は、甲商店から約束手形を振り出して¥100,000を現金で借り入れた。	現金	100,000	手形借入金	100,000
61	得意先大阪商店に期間9か月、年利率4.5%で¥400,000を借用証書にて現金で貸し付けた。	貸付金	400,000	現金	400,000
62	貸付金(¥400,000、年利率4.5%、9か月間)について、本日満期日のため利息とともに同店振出しの小切手で返済を受けたので、ただちに当座預金に預け入れた。借入期間9か月は当期中である。	当座預金	413,500	貸付金 受取利息	400,000 13,500

63	米田商店に¥600,000を貸し付け、同額の約束手形を受け取り、利息 ¥6,000を差し引いた残額を当社の当座預金口座から米田商店の普通預金口座に振り込んだ。	手形貸付金	600,000	当座預金	594,000
				受取利息	6,000

当座借越

☆ 64	B銀行の当座預金口座が¥50,000の当座借越となっているため、決算において適切な勘定に振り替える。	B銀行当座預金	50,000	借入金 (又は 当座借越)	50,000
------	--	---------	--------	---------------------	--------

未払費用

65	給料について、決算日までの未払額が¥6,000ある。決算整理仕訳を行う。	給料	6,000	未払給料 又は (未払費用)	6,000
----	--------------------------------------	----	-------	----------------------	-------

66	決算整理前残高試算表の借入金¥200,000は9月1日に借入期間1年、年利率3%で借り入れたもので、利息は元金とともに返済時に支払うことになっている。利息の計算は月割による。3月末日の決算整理仕訳を行う。	支払利息	3,500	未払利息 又は (未払費用)	3,500
----	--	------	-------	----------------------	-------

☆ 67	決算整理前試算表の支払利息¥20,000は、当期首から今期1月31日(利払日)までの借入金¥2,000,000に対する利息である。この借り入れは引き続き行っている。決算日(3月末)の仕訳を行う。	支払利息	4,000	未払利息 又は (未払費用)	4,000
------	---	------	-------	----------------------	-------

68	従業員が業務のために立て替えた1か月分の諸経費は次のとおり。これらは来月の給料に含めて支払うこととし、未払分として計上した。 ・電車代 ¥6,000 ・タクシー代 ¥4,000 ・書籍代(消耗品費) ¥5,000	旅費交通費 消耗品費	10,000 5,000	未払金	15,000
----	---	---------------	-----------------	-----	--------

※ ・未払費用は、支払利息、地代、家賃、保険料など、継続的にサービスを受けていてまだ払っていない費用のこと。
・未払金は、商品代金や一時的なサービスの提供に対してまだ払っていない代金のこと

未収収益

69	期末時点において、手数料の未収分が¥24,000ある。	未収手数料 又は (未収収益)	24,000	受取手数料	24,000
70	決算整理前残高試算表の貸付金¥200,000は当期の9月1日に期間1年、年利率3%の条件で貸し付けたもので、利息は返済時に一括して受け取るになっている。利息の計算は月割り。決算日(12月31日)の仕訳を行う。	未収利息 又は (未収収益)	2,000	受取利息	2,000
前払費用					
71	期末において、家賃の前払額が ¥15,000ある。	前払家賃	15,000	支払家賃	15,000
☆ 72	決算整理前残高試算表の手形借入金¥1,000,000は当期の2月1日に借入期間1年、利率年4.5%で借り入れたものであり、借入時に1年分の利息が差し引かれた金額を受け取った。3月31日、決算時の整理仕訳を行う。	前払利息	37,500	支払利息	37,500
前受収益					
73	決算整理前残高試算表の受取手数料のうち¥360,000(月額¥30,000)は、5月1日に、向こう1年間の手数料を受け取ったものである。3月末日、決算整理仕訳を行う。	受取手数料	30,000	前受手数料	30,000
再振替仕訳					
74	前期の決算において未収利息¥36,000を計上していたので、本日(当期首)、再振替仕訳を行った。	受取利息	36,000	未収利息	36,000
75	前期末、受取手数料の前受分が¥30,000あったので、当期首に再振替仕訳を行った。	前受手数料	30,000	受取手数料	30,000

- ※ ・前払費用は、地代、家賃、保険料、リース料など、継続的にサービスを受けていて前払いした費用のこと。
 ・前渡金(前払金)は、商品代金や一時的なサービスの提供に対する前払いについて使用する

売上原価の算定

76	期末商品棚卸高は ¥330,000である。当期の仕入れ額は、¥4,300,000、期首の繰越商品高は¥480,000であった。決算時の仕訳を行う。売上原価は「仕入」の行で計算する。	仕入	480,000	繰越商品	480,000
		繰越商品	330,000	仕入	330,000

77	仕入勘定において算定された売上原価 ¥2,800,000を損益勘定に振り替えた。	損益	2,800,000	仕入	2,800,000
----	--	----	-----------	----	-----------

去人税等、租税公課

78	商品¥330(税込み)を掛けて仕入れた。(税抜き方式で記帳する)	仕入	300	買掛金	330
		仮払消費税	30		

79	商品¥440(税込み)を掛けて売り上げた。(税抜き方式で記帳する)	売掛金	440	売上	400
				仮受消費税	40

80	決算にあたり、消費税の納付額を算定した。なお、仮払消費税勘定の残高は¥3,000、仮受消費税勘定の残高は¥4,000であった。	仮受消費税	4,000	仮払消費税	3,000
				未払消費税	1,000

81	法人税、住民税及び事業税の中間申告にあたり、前年度の確定税額¥2,000,000の50%を現金で納付した。	仮払法人税等		現金	1,000,000
			1,000,000		

82	決算となり、法人税、住民税及び事業税が¥2,200,000と算定された。なお、¥1,000,000は中間納付している。	法人税、住民税 及び事業税	2,200,000	仮払法人税等	1,000,000
				未払法人税等	1,200,000

83	確定申告の納付書により、¥1,200,000を普通預金口座から入金した。	未払法人税等 1,200,000	普通預金	1,200,000
----	--------------------------------------	---------------------	------	-----------

84	収入印紙¥7,000を購入し、代金は現金で支払った。なお、この収入印紙はただちに使用した	租税公課 7,000	現金	7,000
----	--	---------------	----	-------

85	固定資産税 ¥30,000が当座預金口座から引き落とされた。	租税公課 30,000	当座預金	30,000
----	--------------------------------	----------------	------	--------

※ 租税公課:利益と関係なく算出される税金で、主なものは固定資産税と印紙税。

※ 利益に応じて貸される税は、法人税、住民税、事業税である、これらをまとめて「法人税等」と言う。
法人税等は、一般に中間納付分と確定申告分の年2回に分けて納付する。

資本金等

86	関東商事株式会社の設立にあたり、株式200株を1株当たり¥80,000(=¥16,000,000)で発行し、全額払い込みがあったため、当座預金口座に預け入れた。	当座預金 16,000,000	資本金	16,000,000
----	--	--------------------	-----	------------

87	株主総会で、繰越利益剰余金を財源とした剰余金の配当などが次のとおり決定した。 株主配当金¥300,000、利益準備金の積立て ¥30,000	繰越利益剰余金 330,000	未払配当金 300,000 利益準備金 30,000	
----	---	--------------------	-------------------------------------	--

現金過不足

88	月末に金庫を実査したところ、紙幣¥100,000、硬貨¥5,800、得意先振出しの小切手¥10,000、約束手形¥20,000、郵便切手¥1,000が保管されていたが、現金出納帳の残高は ¥116,000であった。不一致の原因を調べたが原因は判明しなかったため、現金過不足勘定で処理することにした。	現金過不足 200	現金	200
----	---	--------------	----	-----

89 決算時、現金過不足¥1,000(借方)のうち¥800は通信費の記入漏れであることが判明した。残額は不明のため適切に処理した

通信費 800
雑損 200

現金過不足 1,000

☆ 90 現金の帳簿残高が実際有高より ¥10,000少なかったので現金過不足として処理していたが、決算日において、受取手数料¥15,000と旅費交通費 ¥7,000の記入漏れが判明した。残額は原因が不明であったので、雑益または雑損として処理する。

現金過不足 10,000
旅費交通費 7,000

受取手数料 15,000
雑益 2,000
